特集：エビデンスに基づいた学習者中心の教育・学習支援

学習者の情意に注目したオンライン授業
支援システムの提案

永田 奈央美*, 植竹 朋文**

A Proposal for an Online Teaching Support System
Focusing on Learners' Affect

Naomi NAGATA*, Tomofumi UETAKE**

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症に伴い、多くの大学で Zoom や Teams といったツールを利用したオンライン授業が展開された。当初は混乱があったものの、現在はその運営方法についてさまざまな知見が集まってきており、ある程度の質が担保されるようになってきている。しかし一方で、依然として教師と学習者、および学習者間のコミュニケーションには問題が多く、学習者の情意（興味、関心、態度）に応じた授業が実施できているとは言いがたい⁽¹⁾。さらに、オンライン授業では多くの学習者がカメラとマイクをオフにして参加しているため、以下に示すような新たな問題も生じてきている。

- (1) 学習者は情意を教師へ伝えることが難しい
- (2) 教師は対面講義時には容易に得られる学習者らの情意に関する情報を得ることが難しい

これらの問題は、大規模講義においては特に深刻で、現状では教師が学習者らの情意に応じた授業を展開することが困難な状況にある。

そこで本論文では、学習者の「情意」に注目し、研究を進めていくことにした。

2. 学習者の情意

Bloom⁽²⁾によれば、学習者の情意は、学習者と授業内容との関係性の表れであるとされている。そして、情意（興味、関心、態度）や情意的感情（ポジティブ／ネガティブ）の評価は、授業改善の指標として有効であることが示されている。一方、情意は、認知領域の発達の成果に付随して表れるものであることから、学習者が自らの情意を特定し、表出することは難しいということが指摘されている⁽³⁾。

そこで本研究では、学習者の情意を次の四つの要素に分類した。

- (1) 学習者の理解度（理解に関する感情の程度）
- (2) 学習者の興味度（ポジティブな関心の程度）
- (3) 学習者の感情（ポジティブ／ネガティブの程度）
- (4) 学習者の関心度（関心の程度）

3. 本研究の目的

以上のような状況を踏まえ本研究では、オンライン授業を対象に、学習者の情意の表出を促し、学習者らの情意を教師へ視覚的・直感的に伝えるシステムを提案し、その時々々の学習者らの情意に応じた授業を実施できるように、教師を支援することを目的とする。

具体的には、提案するシステムにより、学習者が自

* 静岡産業大学経営学部（Faculty of Management, Shizuoka Sangyo University）

** 専修大学経営学部（School of Business Administration, Senshu University）

受付日：2024年6月3日；再受付日：2024年9月19日；採録日：2024年12月24日